

金融教育が必要な3つのワケ ～ママFPのひとりごと⑭～

ファイナンシャルプランナー 鈴木さや子

先月から、このコラムで子ども向け金融教育を取り上げています。金融教育とは「豊かで幸せに生きていくために必要な教育のこと」でしたね。昭和の時代にはあまり話題にのぼらなかった言葉のように感じますが、実は歴史は意外と長い金融教育。昨今はあちこちで耳にするようになり、その必要性が認識されてきていることを、ひしひしと感じます。

今月は、金融教育の歴史と、その必要性について考えていきたいと思います。

1. 金融教育の歴史

金融教育、すなわちお金に関する教育の発端は、60年前までさかのぼります。現在の金融広報中央委員会（※）の前身である貯蓄増強中央委員会が発足したのが60年前。この団体が先頭に立って、戦後の高度成長期時代の日本で「貯蓄」に主眼を置いたお金の教育の普及を図ってきました。その後健全な金銭感覚の養成など「金銭教育」の視点が加わり、1980年代以降には、金融商品やサービスの多様化に伴って、2001年に現在の金融広報中央委員会に名称を変え、もっと広い意味での総合的に行う金融教育が本格的にスタートしました。政府は2005年に「金融教育元年」と位置付けて、さらなる国民的普及に向けて取り組みを本格化。その結果、公立の小中高校でも、金融教育の要素が取り入れられた授業が以前より増え、社会や公民の単元で、たびたび出てくるようになりました。

（※）金融広報中央委員会・・・国や日本銀行、自治体、民間団体などと協力して暮らしに身近なお金の情報を幅広く広報している団体。愛称「知るぼると」。子どものお金の教育にも古くから携わっています。

（URL）<http://www.saveinfo.or.jp/index.html>

2. 金融教育が必要な3つのワケ

60年もの歴史のある金融教育ですが、昨今になり、その必要性はどんどん上がってきています。前段に書いたように、日本でも学校教育に多少取り入れられてはいるものの、日本の学校教育における金融教育は、諸外国と比べて、実践に結び付くような内容が手薄であると言われていています。現物のお金のやり取りが日常的に見ることができ、実践として身体に染み込む家庭での金融教育は、やはり欠かせないと言えるのではないのでしょうか。

家庭で金融教育を実践するためには、親自身がその必要性を認識することがとても大切。どうして金融教育が必要なのか考えていきましょう。

■社会構造の変化

以前の日本では、「終身雇用」「年功序列」といったように、いったん就職すれば定年まで働く環境が約束されており、収入も右肩上がりに上がる世の中でした。ところが、今はどうでしょう。年収も増

えない、ボーナスカットの企業も多く、経営不振でリストラに踏み切る企業も続出・・・そのうえ、低金利で預けたお金は全く増えない状況です。

また、超少子高齢化により、世代間扶養のバランスは崩れています。2000年には3.6人の若者で1人の高齢者を支えていたのが、2050年には1.2人の若者で1人の高齢者を支えなければいけなくなるという調査結果も。社会保障制度がどうなるかも全く読めなくなっており、自分の老後を、国に頼って生きていける時代ではなくなりました。自分のお金は自分で守り、自分で育てられるように、「お金と上手に付き合う力」を身に付けることが求められているのです。

■お金のトラブルの増加

FXといった預けたお金の何倍もの取引ができる金融商品も、誰でも簡単に行えるようになりました。金融商品が多様化し、複雑な仕組みの預金や保険商品などを、よく理解せずに契約したばかりに巻き込まれるトラブルが、後を絶ちません。また、パソコンや携帯電話で、子どもでも簡単に有料ゲームを楽しめ、クリック一つでゲームに必要なアイテムなどが買える時代になりました。お金がかかっているという感覚が麻痺し、アイテムが欲しいばかりにクリックを繰り返した結果、請求額が高くなるケースも頻発しています。

その他、悪徳商法や架空請求、クレジットカード関連などのトラブルも絶えません。こうした手口は巧妙かつ悪質なものになっていて、巻き込まれないためにもお金に関する正しい知識を得て、自分でしっかり予防と対策をすることが必要になっています。

■家庭環境の変化

いまやインターネットで買い物をする、電子マネーで公共機関の乗り物を利用するといったことは、当たり前になってきています。こうした「見えないお金」が生活を成り立たせる環境で育つと、現金のやり取りが子どもの視界に入ることが減り、正しいお金感覚が身に付きづらくなります。また、首都圏などでは早いうちから電子マネーを持つ子どもも増えており、お金感覚だけでなく、「見えないお金」との付き合い方も併せて教えていく必要があると言えるでしょう。

食べ物も消耗品も必要以上に周りに溢れている時代。おもちゃも「欲しい」と言えば誰かが買ってくれる、と思っている子どもも少なくありません。我慢を知らないで大きくなってしまうと、「ひとりで生きる力」に乏しい大人になりかねず、豊かな現代だからこそ、私たち大人が意識して、金融教育をしないといけないと考えています。

金融教育を家庭に浸透させ、子どもたちに「お金と上手に付き合う力」「生きる力」を身に付けることの必要性がお分かりいただけたかと思えます。今回は、年齢別にどのような教育が可能であるかを検証していきたいと思えます。

《今月のお気に入り曲》

交響曲第2番

／シューマン作曲

全4曲あるシューマンの交響曲の中で最もとつきにくいと言われていた曲ですが、聴けば聴くほど味わい深い名曲で、私は大好きな1曲です。

—コラムの無断転写・転載などを禁じます。—